

競争的資金制度改革に関する論点

平成 14 年 5 月 15 日

・競争的資金の検討の背景と問題意識

・日米の競争的資金制度の比較

0 . 米国の競争的資金制度の概要

1 . 日米の研究開発環境と資金使途

(1) 日米の大学における研究開発の経費

(2) 研究者の給与と競争的資金との関係

(3) ポストドク、院生等に対する研究費からの給与支出

(4) 研究機関によって異なる間接経費レート

2 . 競争的資金の運用実態

(1) 競争的資金における研究形態

(2) 研究費の規模と研究資金の期間配分

(3) 直接経費の弾力的運用

(4) 知的財産の帰属

3 . 競争的資金に関する若手研究者の取扱い

(1) 若手研究者の独立性

(2) 院生に対する経済的援助システムの確立

4 . 評価システム

(1) 評価者の選任と充実した申請書

(2) 評価内容の開示と実施後のフォローアップ

(3) 「プログラムマネージャー」の配置

．具体的な対応方策

- 1．競争的な研究開発環境を実現するための制度的枠組みの検討
 - (1)直接研究経費の在り方
 - (2)間接経費による外部資金導入等へのインセンティブ向上
- 2．競争的資金の効果的・効率的配分
 - (1)各配分機関における資金の配分方式と配分方針
 - (2)研究代表者の役割
 - (3)規模の適正化
 - (4)直接経費の弾力的運用
 - (5)知的財産の帰属
 - (6)年複数回の受理
 - (7)競争的資金の研究者への過度な研究費の集中の排除
 - (8)人材の流動化の促進、インブリーディングの解消
- 3．若手研究者の自立性の向上
 - (1)助手、ポストドク等の自立性向上
 - (2)優秀な院生を確保し、優れた研究者・技術者として養成
- 4．公正で透明性の高い評価システムの確立
 - (1)プログラスマネージャーの設置等、恒常的・一元的プロジェクト管理体制の構築
 - (2)公正で透明性の高い評価システム
- 5．総合科学技術会議が行う、競争的資金制度に係る各府省要求分の全体調整の具体的な枠組みの検討